

## 船舶事故調査報告書

平成25年4月4日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成25年2月1日 05時00分ごろ
発生場所	兵庫県たつの市岩見漁港南西方沖 たつの市所在の岩見港東防波堤灯台から真方位265°300m 付近 （概位 北緯34°46.8′ 東経134°31.6′）
事故調査の経過	平成25年2月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 <sup>ちょうぶく</sup> 長福丸、4.9トン HG3-43317（漁船登録番号）、個人所有 11.90m (Lr) × 2.96m × 1.00m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数15、平成13年3月16日
乗組員等に関する情報	船長 男性 41歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成4年12月9日 免許証交付日 平成24年8月19日 （平成29年12月8日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	バルバスバウが破損、プロペラシャフト及びプロペラ翼が曲損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成25年2月1日04時05分ごろ兵庫県姫路市坊勢 <sup>ぼうぜ</sup> 漁港西ノ浦地区を出港し、水揚げのため、岩見漁港に向かい、船長が、操舵室右舷側の操縦席で椅子に腰を掛けて操船に当たり、航海灯を表示し、レーダー及びGPSプロッターを作動させ、約7.0ノットの対地速力で自動操舵により航行した。 船長は、岩見漁港沖防波堤（以下「沖防波堤」という。）の西端付近に設置された簡易標識灯と左舷前方の陸岸との間に向けて北北西進し、04時59分過ぎ、沖防波堤の南方に差し掛かった頃、港内操船に備えて椅子から離れ、自動操舵から遠隔手動操舵に切り換えたのち、遠隔管制器を手を持って操舵室左舷側に設置されたレーダー及びGPSプロッターの画面を明るくするために輝度調整を始めた。 船長は、レーダー及びGPSプロッターの画面を見ながら輝度調整

	<p>を行っており、本船が、遠隔制御器の舵角指示つまみが左に少し回って左に回頭しながら、岩見漁港南西方沖の岩場に向けて航行していることに気付かなかった。</p> <p>本船は、05時00分ごろ岩見港東防波堤灯台から真方位265°300m付近の岩場に乗り揚げた。</p> <p>船長は、損傷状況を確認し、浸水がなかったので自力離礁を試みたが、自力離礁ができず、本事故の目撃者によって海上保安庁へ118番通報された。</p> <p>本船は、10時00分ごろ僚船により引き出され、えい航されて坊勢漁港長井地区に入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風 なし、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期、潮高 約70cm</p> <p>日出時刻：06時58分ごろ</p>
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約0.3m及び船尾約1.6mであった。</p> <p>沖防波堤は、長さが約170mであり、東西方向に築造され、東端及び西端にそれぞれ簡易標識灯が設置されており、西端の簡易標識灯の灯質が単閃赤光の毎4秒に1閃であった。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、岩見漁港南方沖を北北西進中、船長が、自動操舵から遠隔手動操舵に切り換えた際、遠隔制御器の舵角指示つまみが左に回っており、舵が左に取られた状態となって左に回頭を始めたものの、レーダー及びGPSプロッター画面の輝度調整に注意を向け、見張りを適切に行っていなかったことから、左に回頭しながら岩見漁港南西方沖の岩場に向かって航行していることに気付かず、同岩場に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、夜間、本船が、岩見漁港南方沖を北北西進中、船長が、自動操舵から遠隔手動操舵に切り換えた際、遠隔制御器の舵角指示つまみが左に回っており、舵が左に取られた状態となって左に回頭を始めたものの、レーダー及びGPSプロッター画面の輝度調整に注意を向け、見張りを適切に行っていなかったため、左に回頭しながら岩見漁港南西方沖の岩場に向かって航行していることに気付かず、同岩場に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動操舵から遠隔手動操舵に切り換えたときには、舵角指示つまみが中央の位置にあることを確認すること。</li> <li>・レーダーなどの航海計器の調整は、短時間で行うか、操船に余裕</li> </ul>

	がある海域で行うこと。
--	-------------